

## 自己評価

### \* 給食総評

・食育計画は十分に検討して立てている。食育活動も行い、その記録は残しているものの、職員間で共有されていないことや周知できていないことが多く、保育室との関わりが今後の課題である。又、離乳食やアレルギー食の対応は現状が最善なのかを、日々の保育の中で検討・見直していきたい。

昨年から引き続きにはなるが、保護者や地域への食育活動や保護者支援などが十分に行えていないので、どのような活動ができるのかを保育所全体で考えていきたい。

### \* 保育総評

・日々の保育をそれぞれが責任を持って担うことはできていたと思われる。この一年を振り返ると、保育のあり方や専門性の向上において大きな変化は見られなかった。保育をさらに深めていくためには、現在の保育指針を丁寧に読み返し、専門家としての知識に基づいた実践を行うことが求められる。そのためには、誰もが参加しやすい会議や園内研修、自主研修の充実を図る工夫や計画が必要である。「配慮が必要な子」への視点についても、職員間での支援方法や考え方の違いに戸惑いが見られ、知識や理論に基づく共通理解を深める話し合いが不可欠である。現状を常に見直しながら、質の高い保育の提供を目指していくことが求められる。現状にとどまらず、専門性を高め続けることで視点が広がり、新たな課題の発見にも繋がっていくという点である。